

熊本県立球磨工業高等学校 平成 29 年度学校評価計画表

1	学校教育目標
1	ものづくりをとおした人づくり
	<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりをとおして人格を磨く ・ものづくりに関する資格取得の推進 ・工業教育を充実させるための基礎学力の向上
2	部活動をとおした人づくり
	<ul style="list-style-type: none"> ・心身健康で明るく活気ある学校雰囲気醸成 ・逞しくチャレンジ精神を持った生徒の育成
3	地域から信頼される人づくり
	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立（5 S 活動の充実） * 5 S : 整理・整頓・清掃・清潔・躰 ・地域貢献への積極的な参加 ・自尊感情と球磨工生としてのプライドの育成

2	本年度の重点目標
1	希望進路の実現
	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な進路開拓による求人数増 ・全職員による面接指導の充実
2	少子化、多様化への対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した学校の特色づくり ・中学校への広報活動の充実 ・小中学生へものづくりの魅力発信
3	工業教育の充実
	<ul style="list-style-type: none"> ・安全教育の徹底 ・学科の専門領域の深化と特色づくり ・資格取得の奨励（ジュニアマイスター取得への挑戦） ・職員の専門性向上と熟練技能の伝承
4	学校評価の充実と活用
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価とその検証
5	人材育成
	<ul style="list-style-type: none"> ・O J T の充実 ・職員研修の充実
6	教育課題への対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止と人権教育の充実 ・特別支援教育の充実 ・教育相談の充実 ・エコスクール活動の推進
7	職員の健康管理と不祥事防止
	<ul style="list-style-type: none"> ・働きやすい職場環境づくり ・職員間の連携の強化

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	本年度の重点目標の周知	・ 育友会活動及び各学年保護者会の充実	・ 学校評価アンケートにより、重点目標を知っている保護者の割合を85%以上とする。	・ 育友会活動の充実 ・ 学年保護者会の実施(年3回)	A	・ 86%の保護者が本校の教育目標を理解しており、教育活動及び育友会活動に尽力していただいている。
		・ 学校ホームページ(HP)や球磨工メール、育友会新聞、学年及び学級通信等の充実	・ HPや球磨工メールを積極的に活用。保護者へ学校行事等を伝える。	・ HP、育友会新聞等の内容を更に充実 ・ HPの積極的な更新 ・ 育友会新聞を学期に1回発行。	A	・ HP・球磨工メールによる活動の様子を積極的に発信した結果、HPのアクセス数は県下の公立高校でトップクラスである。最新情報更新の頻度を上げるなど更なる改善は必要。 ・ 育友会新聞は定期的に発行。
	学校の教育力の向上	・ 授業アンケート等の活用	・ 学校評価アンケートで「授業アンケートを活用して工夫をしている」を90%以上とする。	・ 年2回の授業アンケートを実施し、集計し、授業改善を目指す。	C	・ 学校評価アンケートで「授業アンケートを活用して工夫をしている」が71%であった。また、授業改善プロジェクトを立上げ、「工業人を育てる」を目標に授業改善を目指している。 ・ 公開授業は学期2回実施し、参観率は約31%であった。もう少し改善が必要である。
		・ 公開授業の参加	・ 公開授業において、職員の90%以上が、年間3回以上の授業参観をする。	・ 学期に2回の公開授業のうち、1人あたり1回以上参観する。		
		・ 業績評価及び能力評価シート等の活用	・ 業績評価及び能力評価の目標達成が、自己評価で全職員の85%以上とする。	・ 各職員の設定目標の達成に向けた取組を行う。	B	・ 自己評価でB以上(目標達成以上)が業績評価80.6%、能力評価93.5%となり、目標数値の未達・到達はあったが概ね、学校の活性化に貢献している。
	地域連携の強化及び地域貢献	・ 中学・高校との連携の強化	・ 目標を明確に、進路変更の生徒を減らす。 ・ 中学生へ本校のPRをし、入学者数の確保に努める。	・ 中学校へ生徒の近況報告や問題行動等の連絡及び相談、連携を図る。 ・ 中学生及び本校生との交流の機会を作る。	B	・ 今年度までは錦町立錦中学校との職員交流による中高連携を図るなど、各中学校と連携する実践をしている。 ・ 人吉市立第二中学校との生徒交流の話が持ち上がったが、現実までには至らなかった。
		・ 地域行事等への積極的な参加	・ 地域行事等へ積極的に参加、工業各科の生徒作品展等を行う。 ・ 主催者及び地域の満足度を向上させる。	・ 地域産業フェア等への積極的な参加 ・ 学校、同窓会、育友会の連携を密にし、地域に貢献する。	A	・ 年間を通じて、各地域におけるイベントには積極的に出展出品等で参加している。 ・ 同窓会が中心となり、学校・育友会がバックアップする形で地域行事へも参加した。
		・ 開かれた学校づくりの推進	・ 育友会総会等の保護者の参加率60%以上とする。	・ 魅力あるPTA活動の周知及び工夫 ・ 参加率向上のための意見集約 ・ HP等による学校行事等の情報提供	D	・ 育友会総会の出席率が40.0%(昨年度47.2%)と目標を大幅に下回っている。年々下がっているだけに、保護者が出席しやすい方策を早急に学校・育友会で協議が必要である。
	組織の運用と学校活性化	・ 業務改善及び校務分掌のバランス	・ 職員アンケートによる組織の充実度を80%以上、職場へ向かうことが楽しいが85%以上とする。	・ 業務の改善意見集約とやり甲斐のある職場環境づくり ・ 科会及び部会、委員会等で、職員の帰属意識の向上	D	・ 校務分掌でバランスは取れているが56%、心や気持ちに余裕はあるが約47%となっている。目標に大きく到達していないので、働き方改革も含めた業務改善に迅速に対応する必要がある。
		・ 職員間の工作上的連携	・ 部活動参加生徒を昨年同様90%以上とする。	・ 学期毎の活動報告書の作成と広報	A	・ 全体加入率は96.1%だった。各部とも県ベスト8以上に入る成績を収めているので、今後の活躍に期待し、広報活動にも力を入れたい。
		・ 部活動の活性化	・ 職員による中学校訪問や説明会を4回以上実施する。	・ 5月新入生状況報告 ・ 6月学校説明会 ・ 9月学校行事等案内 ・ 11月進路状況報告	A	・ 今年度の前期(特色)選抜では募集人員を満たし、後期選抜でも募集人員を超える応募があった。今後も魅力ある学校作りに力を入れてPRしていきたい。
		・ 入学希望者定員確保への更なる取組				

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学力向上	基礎学力に関する指導	<ul style="list-style-type: none"> 校内検定などの基礎学力向上への取組とそのデータの活用をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 1, 2年生全員が校内検定で目標段階に追試等を通して達する。 	<ul style="list-style-type: none"> 国数英の課題を実施して、週一回の試験を実施する。 学期にまとめ試験を実施し、基礎学力の定着を把握する。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 学期毎のまとめテストで300点満点中200点以下が1学期は36%、2学期は55%であった。課題が難しくなるにつれ、学力向上につながっていない。今後の工夫が必要である。
	授業力向上	<ul style="list-style-type: none"> 全ての生徒が、分かりやすい授業実践への取組 	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業を初任研以外で5回以上実施する。 公開授業を学期に2回実施し、授業力向上、授業改善を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 合評会や授業アンケートにより授業改善を目指す。 全員、公開授業の参観が毎回1回以上を目指す。 アクティブラーニング型の授業、ICTの活用を目指す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業が初任研以外で実施されたのが、8回であった。 公開授業は1学期2回、2学期2回と実施した。参観者が1学期1回目34%、2回目31%、2学期1回目36%、2回目25%であった。学期の2回目が少なくなっているため、もう少し改善が必要である。 現在、授業改善プロジェクト立上げ、「工業人を育てる」を目標に授業改善を目指している。
	家庭学習の習慣化	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の習慣化 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートにおいて家庭学習をしている生徒を50%にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内検定や考査前などでの家庭学習の習慣を付けさせる呼びかけを行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートにおいて家庭学習をする生徒は40%であった。今後も呼びかけや校内検定を続けていきたい。
キャリア教育(進路指導)	キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 進路目標の設定 人生観、社会性の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな人間性の育成と主体的な進路選択ができる能力を養う。 卒業後の人生設計を考えさせ、人生観、社会性を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員による進路指導の徹底 就職適性検査や外部模試の結果の活用 職員研修による職員の資質の向上 外部講師等によるガイダンスの実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> 3年生の面接指導、2年生のインターンシップの担当等、全職員による指導ができた。 新しい学習指導要領を見越した指導に関する職員研修の実施をした。 管内製造業事業所を招聘し、インターンシップの事前指導を行った。
	目標進路の達成	<ul style="list-style-type: none"> 就職、進学指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 1次内定率93%達成 進路決定率100%達成する。 公務員志望の未決定者0人とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路ガイダンスの充実 進路課外の充実 進路対策指導の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> 1次内定率は93.2%と高水準となった。 熊本大学に2年連続の合格者を出した。その他の国立大にも例年合格者を出しており、「国立大に行ける工業高校」のイメージを地域に定着させていきたい。 適切な割合で外部講師を交えたガイダンスを実施した。今年度は、最近就職試験等で出題されるグループワークを1年生対象に実施し、協調性や洞察力を育ませた。
	県内就職の促進	<ul style="list-style-type: none"> 県内就職を目指す生徒数の増加 	<ul style="list-style-type: none"> 就職希望者における県内就職内定者15% インターンシップにおける、管内新規受入事業所数の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 熊本しごとコーディネーターとの連携強化 管内事業所説明会の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> しごとコーディネーターが就職ガイダンスに多数参加することで、県内企業とのつながりが強くなっている。県内のプライト企業からの求人も多くなってきており、地道な活動が実を結んでいる。 県内就職率は16.0%となり、目標を達成することができた。プライト企業をはじめとする優良企業に就職が内定している。 管内事業所説明会を今年初めて実施した。保護者の参加もあり、親子が同じ目線で地域の企業と産業について学ぶことができた。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
生徒指導	健全な人間育成	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立 ・礼儀、礼節の徹底 ・交通ルール、マナーの遵守 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの評価項目（職員や保護者役員の満足度）75%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校指導、頭髪服装指導、自転車点検、集会での啓発、列車補導、日常の指導 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に概ね落ち着いた生活を送ることができているものの、年度初めに新入生による大きな交通事故が1件起こった。
		<ul style="list-style-type: none"> ・校内美化に対する自発的態度の育成 ・生徒会活動の活発化 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートによる職員や保護者の評価項目の基準値を75%とし、基準値以上とする。 ・学期に1回、各種委員会等で話し合いの場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部による適切な掃除計画、ごみ分別の指導 ・美化コンクールの実施 ・委員会活動の活発化、行事の円滑な運営、達成感のある生徒総会の開催 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な計画により掃除に意欲を持って取り組む生徒が多い一方で、昨年度と比較すると校内に小さなゴミが落ちていることが目立つ。
	職員間で連携協力できる指導体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の共通理解と生徒指導体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの評価項目での、職員や保護者の客観的評価を80%とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導方針の周知、職員間の連携協力の強化、相談しやすい職場づくり ・若手職員への支援、育成 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導のあり方について、転換期に来ている。一層職員間の連携を密にしていく必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動への適切な対応・指導 		<ul style="list-style-type: none"> ・正確な事実確認、事案発生の原因、背景の究明、事後指導を含めた適切な対応 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・特定のクラスにおいて問題行動等の実態把握が遅れ、適切な指導が難しいことがあったものの、全体的には良好。
	安全安心な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・情報安全・情報モラル教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭におけるインターネット等利用に関するルールづくりや、生徒会が提案した「携帯電話やインターネット、SNSを使う際のルール」を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と連携を深め、啓発活動を推進する。 ・情報モラル講演会を実施するなど啓発活動を実施する。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度からスマホ・携帯電話の校内持ち込みが可となり、年度当初には授業中の使用等で2件の特別指導が出た。SNSの利用等についても引き続き注意喚起と継続的な指導が必要。
		<ul style="list-style-type: none"> ・防犯教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者の防犯意識の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・警察署と連携を深め、地域の防犯に関する情報発信を行う。 ・防犯に関するLHRを計画実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には規範意識を持って行動できている生徒が多いが、問題行動等もあり一層の啓発が必要。
人権教育の推進	職員への啓発活動の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・「同和」問題への理解を深める取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・部落差別の現状やこれまでの国や県の解消に向けた取組等の歴史に関する正しい理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい自主教材作成 ・校外の研修会への参加促進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・同和問題の課題を先生方と学び人権感覚の向上に努めた。 ・例年より、多くの職員が研修会に参加し、啓発活動を行なった。
		<ul style="list-style-type: none"> ・水俣病問題をはじめ様々な人権問題に対する啓発活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場に立って物事を考えられる生徒の「想像力」の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回程度の「人権教育だより」の発行 ・人権教育推進委員会の活性化と職員研修の充実 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に人権教育だよりを発行することができなかった。 ・例年よりも人権教育推進委員会を開催し、連携することができた。
	学校生活全般における「命を大切に育む指導」	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい人間関係を構築するための活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から引き続きアサーションへの理解と取組を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業創造の実践や職員研修で、指導力向上を図る。 ・生徒の日常の中に潜む課題を把握し将来のビジョンを見据えたキャリア教育につなげる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育の視点を取り入れた授業創造について、先生方と課題を共有し、取り組むことができた。 ・学年主任・担当職員と連携を密にとり、生徒の実態に合わせた人権LHRを実施することができた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・「命の大切さ」を学ぶ取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・自他の生命を大切にして、お互いに理解し合う集団づくりを実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会等と協力し、人権標語やポスター作成を行う。 ・人権教育に根ざした授業づくり 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・人権標語や子ども人権作品に応募して、入賞した。 ・人権教育の視点を取り入れた授業を実施することで生徒の自己肯定感を高めることができた。 	

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
いじめの防止等	いじめの未然防止	・いじめの未然防止の取組	・情報モラルに関する指導の徹底。 ・命を大切にすることの育成を図る啓発活動の実施。	・情報モラルに関する講演会や研修会を実施するなど啓発活動に取り組む。 ・各教科の協力や、生徒会・美術部等による呼びかけ、放送委員による校内放送等で啓発する。	A	・生徒会や美術部員、国語科を中心にポスターや標語の作成等を行い、啓発活動を実施できた。 ・人権教育講演会や献血セミナー等を通して生徒に命の大切さを考えさせる機会を設けることができた。
	いじめの早期発見と解消	・いじめの早期発見の取組	・いじめの兆候を見逃さない徹底した調査の実施	・職員による生徒の変化及び状況把握 ・心のアンケートの実施 ・面談や聞き取り調査 ・家庭訪問の実施	A	・心のアンケートを年間3回実施し、生徒の実態把握に努めることができた。 ・気になる生徒には担任を中心に面談等を行ない、いじめの早期発見に努めた。
		・いじめの解消の取組	・認知したいじめの完全解消を目指す。	・被害者、加害者、周囲の生徒に対する指導や対応を担当及び関係職員と連携して行う。 ・保護者に対して説明および指導協力の要請	B	・担任を中心に、科職員、学年、部活動顧問が連携して指導を行なった。事態の経過については現在のところ良好。
	いじめ防止対策委員会の機能強化	・いじめ防止等の取組の改善	・いじめ防止等の取組に関する評価とそれに基づいた改善の実施	・いじめ防止対策委員会の取組の計画、実施、評価、改善 ・いじめに対する積極的な認知 ・いじめ解消に向けた取組の評価、改善	B	・学期に1回以上、いじめ防止対策委員会を開催し、関係職員による情報の共有を行なうとともに、いじめの早期発見・解決に向けた取り組みを考慮することができた。
地域連携 (コミュニティ・スクールなど)	学校防災マニュアルの作成	・防災マニュアルの作成	・学校独自の防災マニュアルを作成する	・学期に1回学校運営協議会を開き、問題点等の改善を行う。	A	・学期に1回、学校運営協議会を開き、問題点等を改善できた。
	防災型コミュニティ・スクールの構築	・学校運営協議会の発足	・保護者や地域・自治体との連携体制の確立	・学期に1回学校運営協議会を開き、問題点等の改善を行う。	A	・学校独自の防災マニュアルが完成した。
	教職員の動員体制の構築	・職員の動員体制と役割	・学校側の受け入れ態勢として、職員の動員体制及び役割の確立	・研修等を行い、職員の役割等の周知	B	・職員の動員体制及び役割はできたが、周知の徹底が不十分だった。
工業教育の推進	No.1への挑戦	・ものづくりコンテスト等各種競技大会への取組	・ものづくりコンテスト県大会5部門での入賞(昨年度3部門金賞) ・若年者ものづくり競技大会、ポリテクビジョンにおける入賞	・工業各科の枠を越えた協力体制の強化 ・指導体制や方法を改善	A	・ものづくりコンテスト ●熊本県大会 全部門入賞(金賞3 銀賞2 銅賞1) ●九州大会 3部門入賞(最優秀賞1 優秀賞1 優良賞1) ・若年者ものづくり競技大会 ●全国大会(銅賞) 建築大工職種(専攻科)
		・ロボット大会への取組	・県大会及び全国大会優勝	・部活動と課題研究班との相互の技術交流 ・指導体制や方法を改善	A	全国大会ベスト8
		・マイコンラリーへの取組	・九州大会及び全国大会出場	・部活動と課題研究班との相互の技術交流 ・指導体制や方法を改善	A	全国大会出場
	技能士及びジュニアマイスター数の増加	・技能士・各種資格検定に対する積極的な指導	・技能士 230人以上 ・ジュニアマイスター 140人以上	・授業及び課外等の積極的活用 ・指導体制や方法を改善	A	・技能士認定者数 平成29年度 計250人(見込)(昨年度比+26人) ・ジュニアマイスター認定者数(のべ) 平成29年度(申請中) 特別表彰 6人 ゴールド 84人(特別表彰2人含む) シルバー 80人 計170人(昨年度比+39人) 学校表彰(上位30校:全国約600校中) 理事長賞(3年女子生徒:全国11人中)

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
特別支援教育	困り感のある生徒に対する支援の充実	・困り感のある生徒の実態把握	・学校生活において困り感のある生徒を把握する。	・高校入学時に受け取るアンケートや生徒情報交換会を通して、困り感のある生徒を把握する。	B	・生徒の実態については、新入生アンケートや会議を通してよく把握できるようになっている。 ・発達検査を受けることにつながったケースもあった。
			・S Cや外部機関とも積極的につながり、必要に応じて、個別の支援計画を作成する。	・S Cや外部機関にも積極的に専門的なアドバイスを頂く。個別の支援計画を作成した場合は、保護者の承諾もできるだけ得るようにする。		C
	・特別支援教育の組織的支援	・生徒情報交換会、職員研修などをもち、包括的な支援を行う。	・生徒情報交換会は毎週1回、職員研修は学期に1回実施。	B	・情報交換会、職員研修については、定着してきた。クラス単位での会議（ケース会議）をもう少し必要に応じて行っていきたい。	